

## ありがたいまいにち

小学三年 加未 慧子

「長さきに行こう。」とお父さんが言いました。今年は、戦後80年になる事や、ひいおじいちゃんが戦争に行っていた事を知りました。

長さき原ばくしりよう館に行き、あん内人の山さきさんにお話を聞きました。始めにあったのは、11時2分で時間が止まっていた柱時計でした。原ばくの時間を指したまま、止まっていました。

次に、原ばくの目標地点が、長さきではなく、小くらだったことを知りました。もし、原ばくが小くらに落ちていたら、ひいおばあちゃんや、ひいおじいちゃんはなくなっていたかもしれない。そうしたら、わたしは、生まれていなかったかもしれない。そうしたら、わたしは、生まれていなかったんだと思いました。

八月九日に、長さきの平和式でんで、長さき市長さんがお話をされていました。そのお話の中で、木ギレやガラスがつきささった人、首が半分切れた赤ちゃんをだきしめたお母さんの事など、当時の様子を話していたのが、しりよう館の写真を見た後だったので、すごく心にのこりました。

原ばくは、その時だけでなく、原ばくが落ちた後も、がんや白血病

など色々な後いしょうで、ひばく者を苦しめた。と、お家や学校もこわれたり、さっきまでとなりにいたお友だちがなくなってしまった  
り、長さきの人々のまいにちを全てこわしてしまいました。

今、わたしがまいにちごはんを食べたり出来るのは、あたりまえではなく、ありがたい事だと思います。そして、世界中には、たくさんのかく兵器があることを知り、ばくだんがこわく、おそろしくなってきました。わたしはいつもこわがっています。

「ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ、

ノーモアウオー、ノーモアヒバクシャ」